

九回生の総会報告

平成十四年度の同窓会総会は会場が変わり、一宮スポーツ文化センターで行われました。一宮駅から徒歩圏内の会場で、参加者から「今までより集まりやすい」という声も聞かれました。

恒例となった学年同窓会は、全日制第九回生と十七回生が同時開催され、総会の後、懇親会は暖かな雰囲気の中で、懐かしい話が続きました。

今年もまた会場が変わり、真清田神社参集殿です。前回のスポ文同様、駅から徒歩圏内ですので、遠方に見る方も、またお近くの方も、お誘い合わせになってご参加ください。



九回生学年同窓会

九回生 鈴木(平野)知子

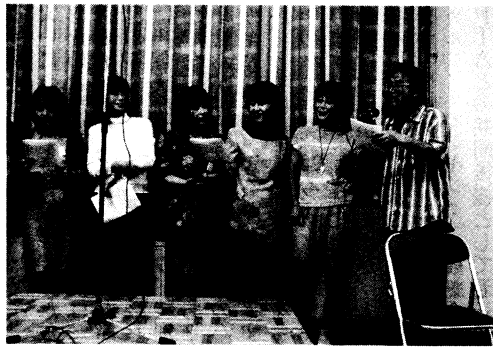
「おととしやったばっかやのに集まるんか?」から始まった、九回生同窓会の幹事会。設定目標100人!達成できるかな?

さて、その月に一度の定例の幹事会:は飲み会。話し合い1割、飲んで笑ってが9割。まじめに話す人1割、飲みに来るだけの人9割。それでも、ちゃんとして進んでいくところが九回生の高校時代から変わらぬところ。クラスごとに学級幹事を決めて電話で誘うことになりました。『僕、女性の家に電話なんかようかけん』『私、男性のお宅に電話したら勘違いされてしまう』などと、いくつになってもシャイで異性とは口が聞けないおじさんとおばさん。

合言葉に、来て本当に良かったと感じてくれる会にするにはどうしたらよいか。集まってご馳走食べべた旧友と個人的にしゃべって:だけでは今までの同窓会と変わらない。それでは九回生の名がすたる?何事も普通は嫌いの幹事達?そこで、です。ギター片手にフォークを歌っていた30年前に戻って皆で歌おう!ということになりました。文化祭のノリです。キーボードも加えました。すっかり気分は高校生。

もちろん、2次会の準備も怠りません。先導役まで決まりました。抜け目ない、というか、(こういうことには)よく間に合う幹事達。かくして、迎えた同窓会当日。目標には少し及びませんでした。が、毎月飲んだ:いや、間違いない、話し合った甲斐がありました。そして、懐かしいギターにフォーク、すっかり体型も顔も変

わったのに昨日まで学校で会っていたような友人との語り。歳を忘れて楽しみ、あつという間の2時間で、話に夢中で残してしまっただけの料理を惜しみつつお開きになったのでした。もちろんその後のカラオケは、楽しさと懐かしさの余韻をさらに残すことになったのは言うまでもありません。次回も元気で、360人全員集まるというね。うん、入れる場所探しておこなうかな?



学年同窓会を振り返って

十七回生 立澤 秀樹

同窓会総会の場をお借りして、卒業二十周年を迎える学年の同窓会を開催するという企画もすっかり定着し、昨年は十七回生が該当

学年でした。同窓生約六十名に加え、学年主任だった岩田隆先生をはじめ恩師の先生方にも多数ご出席いただき、盛大な会となりました。

会場では「久しぶり振り」、「二十年ぶりだね」などの声があちらこちらのテーブルから聞こえ、思い出話に花が咲きました。また、当時の卒業アルバムを見ながらお互いの変貌ぶりを笑い合ったり、恩師の先生を囲んで記念撮影をしたりと、皆、西高生だったあの頃に戻ったかのように、大変懐かしく楽しいひとときを過ごすことができました。参加者からは、「来年もやろう」、「次はもっと大勢で」、「総会と同時に十七回生だけの同窓会をやろう」などの意見も出て、名残は尽きませんでした。

そして、二次会は一宮駅前の居酒屋へと繰り出したのですが、ここのでもまた時間の経つのも忘れて大いに盛り上がり、何年か後の再会を約束し解散したときには、日付が変わろうとしていました。

ご参加いただいた先生方、十七回生の皆様、本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

東京支部会報告

三十四回生 加藤 雄燈

昨年の十一月二十三日(土)に一宮西高校東京支部の同窓会が行われました。学校からは伊藤先生と石田先生に来ていただき、卒業生も含め総勢30人程で大変楽しい同窓会を開くことが出来ました。私は今回幹事をやらせていただいたのですが、先輩方にはお忙しい中かなりの手助けをいただき、大変感謝しております。

私は昨年の参加の時是最年少でしたが、今回は少ないながらも後

輩の顔を見ることが出来てうれしかったです。会では、初めてお会いする先輩方もいらっしやいましたが、とても親しく話をすることができました。先輩方の話から、それぞれの方が自分の目標に向かって努力しているということを感じて、私も負けないようにがんばろうという気持ち湧いてきました。このように今の自分自身を語ったりもしましたが、なにより懐かしい高校時代のことを思い出しながら話をする、なにか気持ち暖かくなるようでとてもうれしい瞬間だったのを覚えてい

ます。これだけの幅広い年代が集まって話が出る機会はなかなか無いことです。この貴重な機会を絶やさないように、さらにこの会を盛り上げていきたいと思えます。そのためにも、来年はより沢山の卒業生の参加を目指します。最後に、これから西高祭をはじめとする数々の行事や学びの日々が、西高生の心に残る素晴らしいものであることを期待しています。

